

松陽高校

松ヶ野 士筆さん

インタビュー



# 3回目の挑戦で トロンボーンコンペティション 日本一に輝いた松ヶ野士筆さん

## プロ奏者の登竜門の コンクールで優勝

トロンボーン片手に爽やかな笑顔を見せる松陽高校3年の松ヶ野士筆(つくし)さん。2016年の日本トロンボーンコンペティション高校生以下の部、独奏部門で1位、さらに日本ジュニア管打楽器コンクールのトロンボーン部門、高校生コースで2位

という輝かしい成績を残したスーパー高校生である。彼はどのようにして、そんな栄光を掴んだのだろうか。

松ヶ野さんが初めてトロンボーンと出会ったのは、小学4年生の時。小学校で吹奏楽部に入って居眠りしていたぐら

と、あえず吹奏楽部に入っ

## 吹奏楽と独奏の両立で 練習漬けの高校生活

そんな彼に転機が訪れる。吹奏楽を続けていた姉が、高校のコンクールメンバリーに選ばれ、家族で県大会の演奏を聞き

「松陽の吹奏楽部は伝統があるぶん、プレッシャーも感じるし、結果で一喜一憂することも多かったけど、皆が部を

あえず吹奏楽部に入っ

「松陽の吹奏楽部は伝

## 良い結果より 良い演奏を目指して

ハードな練習を重ねて高1で日本トロンボーンコンペティションに出場した際は、管楽器で難しいとされるハイトーンを軽々と出す人が多くて驚いた。結果は5位に終わったが、悔しさはなかった。「全国のトップレベルを知りたいという気持ちで参加したので、結果にはこだわってなかった」と松ヶ野さん。高2の時は、あえて難易度の高い曲で挑んだものの、またしても5位。「必死に練習したのに前年と同じ結果しか出ず、初めて悔しいと思いました」。

高3になると過去の経験から「結果に執着すると良い成績は出ない」と心得て、とにかく良い演奏をすることだけに集中した。また、松ヶ野さんが毎回本番前に行く「願掛け」もメンタルを整える一助となった。「本番4日前にヒゲを剃るとか、舞台裏に水を置くとか、本番では赤いパンツを履くとか、数

松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。

「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。

「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。

「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。

「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。



「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。

「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。

「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。



「松ヶ野さんは高3から毎月東京でもレッスンを受けている。「通常トロンボーンのパジションは7つですが、先生は『72個ある』とおっしゃいます。それぐらいトロンボーンの色は繊細なんですよ」と学ぶことも多い。練習に行き詰まるや人生をも変えるような奏者になることが、彼の目標だ。憧れは、NYフィルハーモニーの首席奏者・ジョセフ・アレクシシ氏。「彼は繊細な音も力強い音も出せる人。音色がまるやかで、気持ち良さそうに吹く所も好きです」とその魅力を語る。